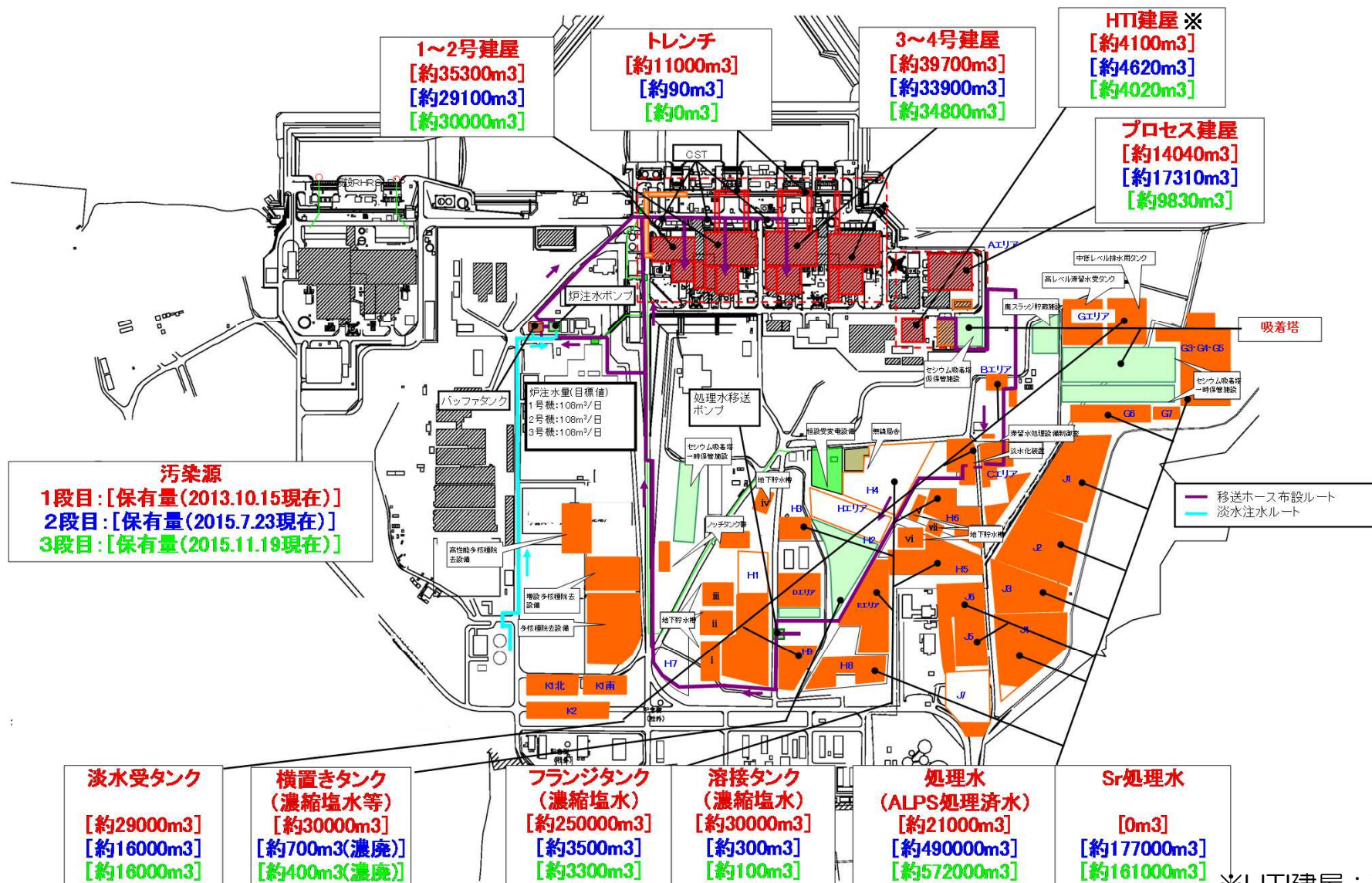


## 参考2-1 リスクマップ詳細

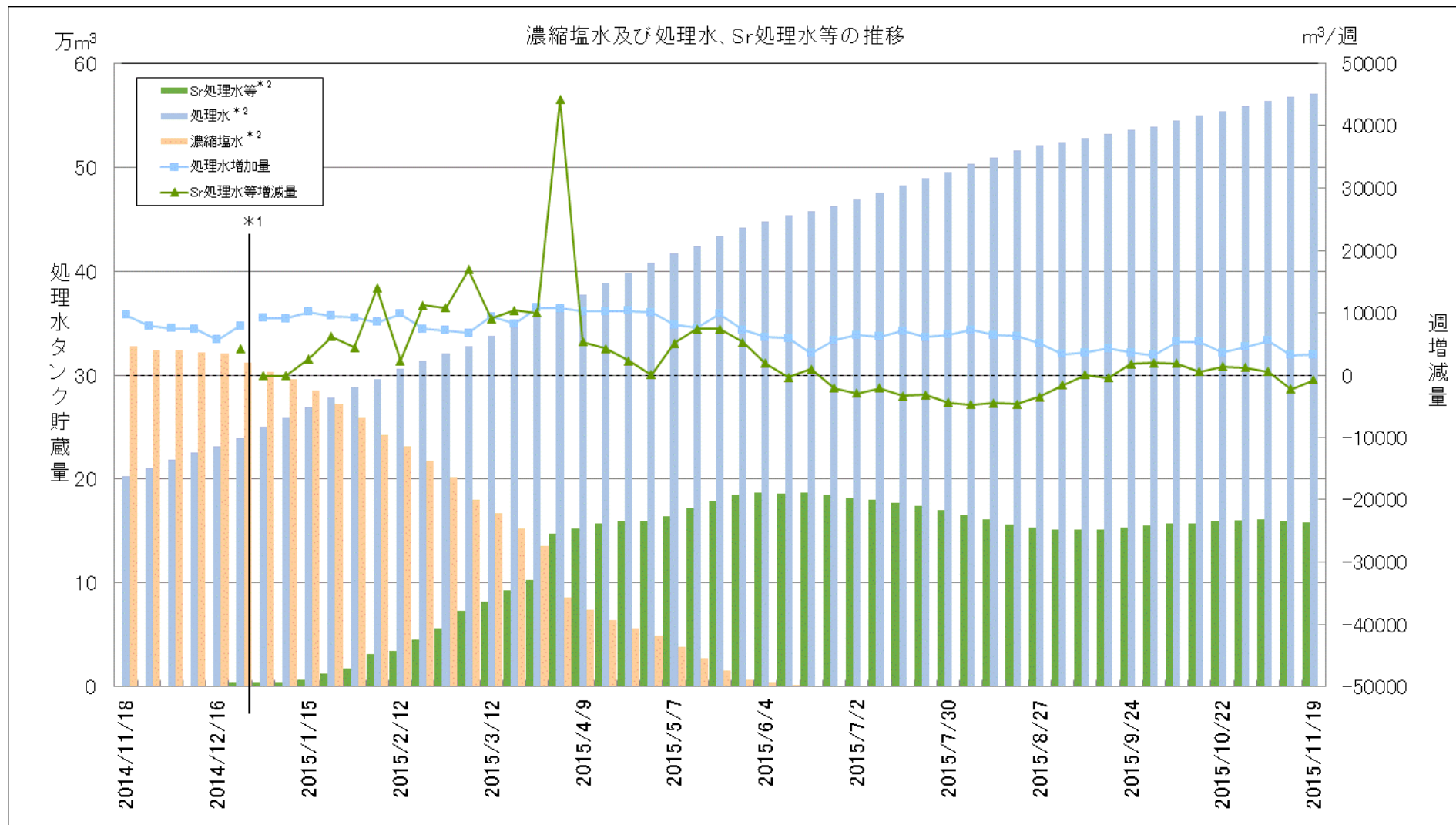
# (1) 汚染水の貯蔵状況

- 建屋貯蔵量：水位調整の変動範囲内であり、前回（2015.7）と比べて貯蔵量の大きな変化はない。
- タンク貯蔵量：Sr処理水の処理を継続。



# (1) 汚染水の貯蔵状況

■タンク貯蔵量：汚染水の貯蔵量は増加しているが、多核種除去設備等による汚染水の浄化が進み、タンク底部の残水を除き、濃縮塩水の処理が完了（2015年5月）。ストロンチウム処理水の処理を進めている。



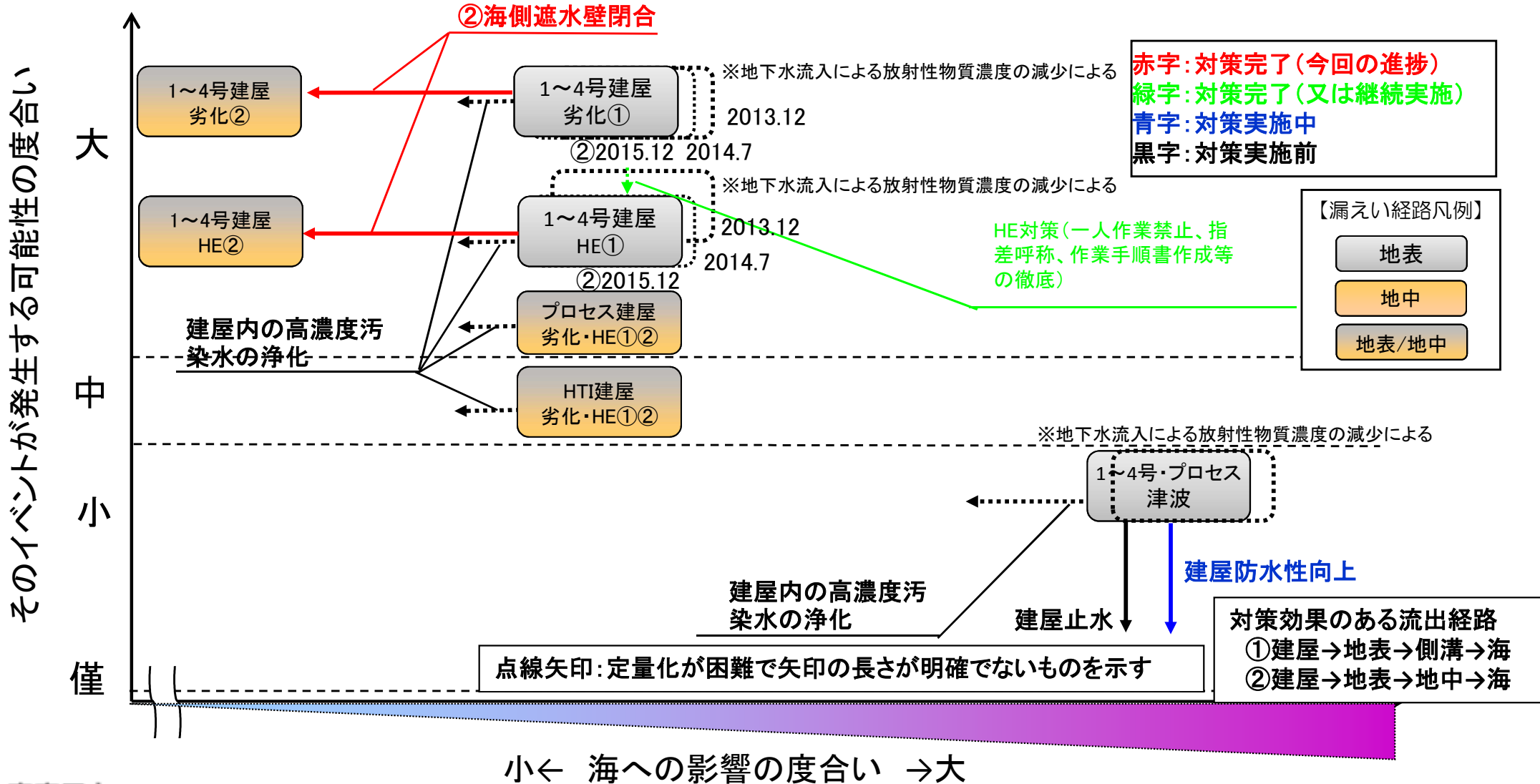
## (2) 各貯蔵箇所毎のリスクの低減状況

- 2015.12現在の各対策の進捗状況に鑑み、リスクの低減状況を評価した。
- 具体的には、以下の貯蔵箇所について、漏えいが発生するイベント（経年劣化、ヒューマンエラー、地震、津波等）毎に実施された対策の効果をリスクマップを用いて評価した。
- 前回評価（2015.7）以降には、以下の対策が進捗している。
  - 海側遮水壁の閉合により、護岸付近の地下水から海洋への流出が抑制
  - 雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減
  - B/C排水路最下流部のゲート電動化により、大量漏えい時の海洋流出が抑制

No.	貯蔵箇所
①	建屋
②	フランジタンク（濃縮塩水）
③	溶接タンク（濃縮塩水）
④	横置きタンク（濃縮廃液）
⑤	フランジタンク（ALPS処理水）
⑥	溶接タンク（ALPS処理水）
⑦	フランジ／溶接タンク（Sr処理水）

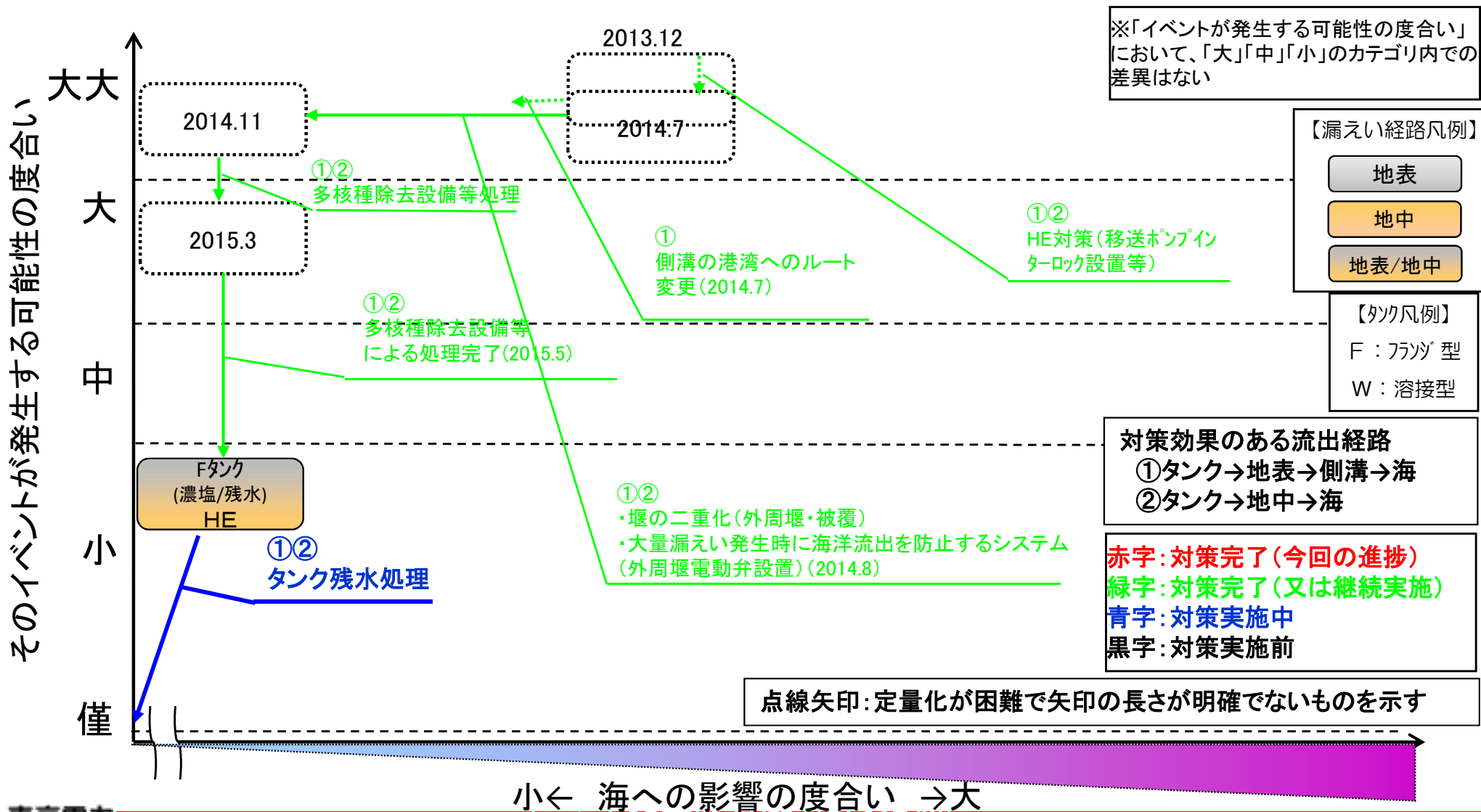
# 汚染水イベント発生リスクマップ (2015.12) 【①建屋】

■ 1～4号機建屋については、海側遮水壁の閉合により、護岸付近の地下水から海洋への流出が抑制



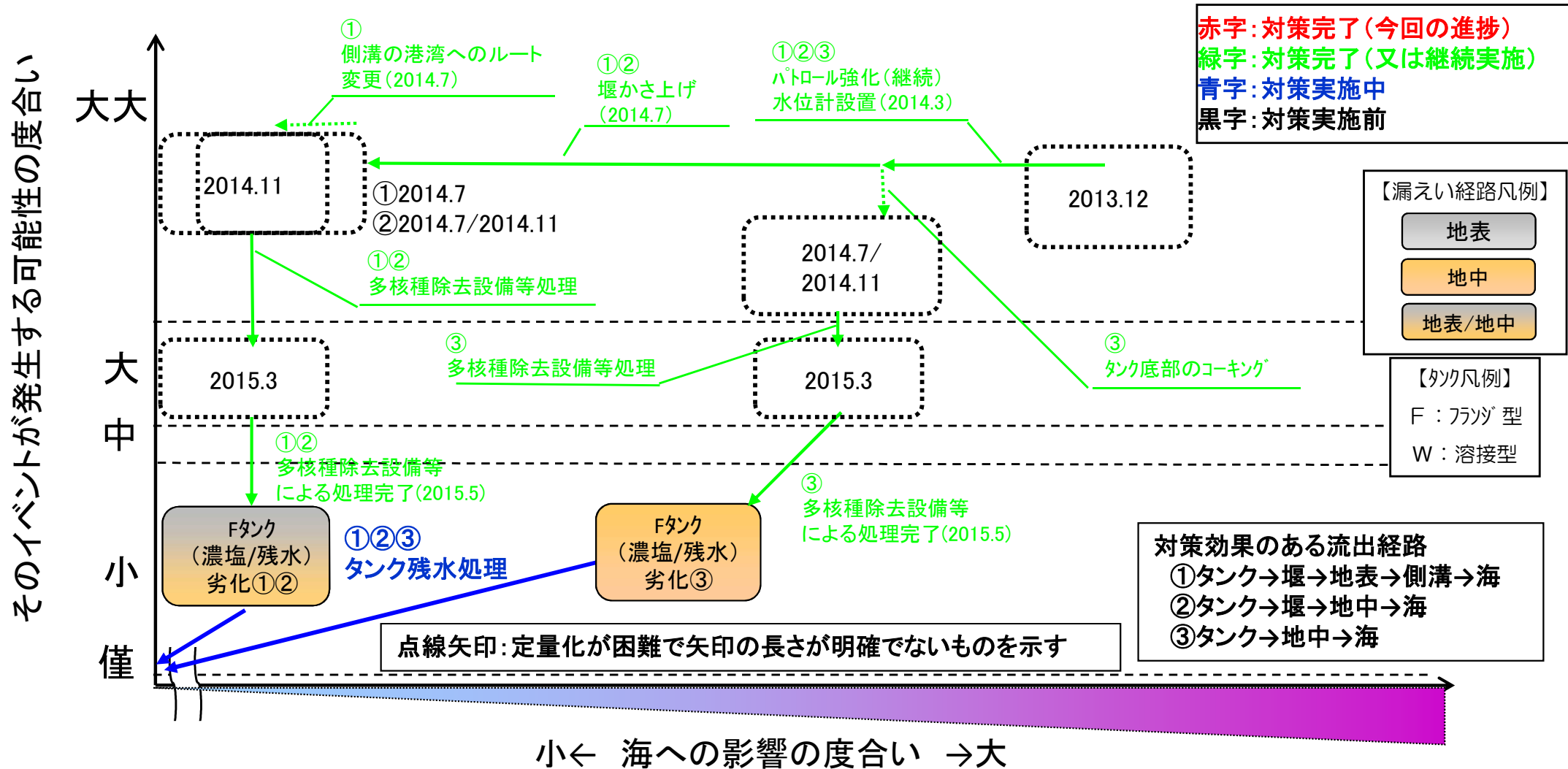
# 汚染水イベント発生リスクマップ (2015.12) 【②-1フランジタンク (濃縮塩水) / ヒューマンエラー】

- 多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了
- 残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。



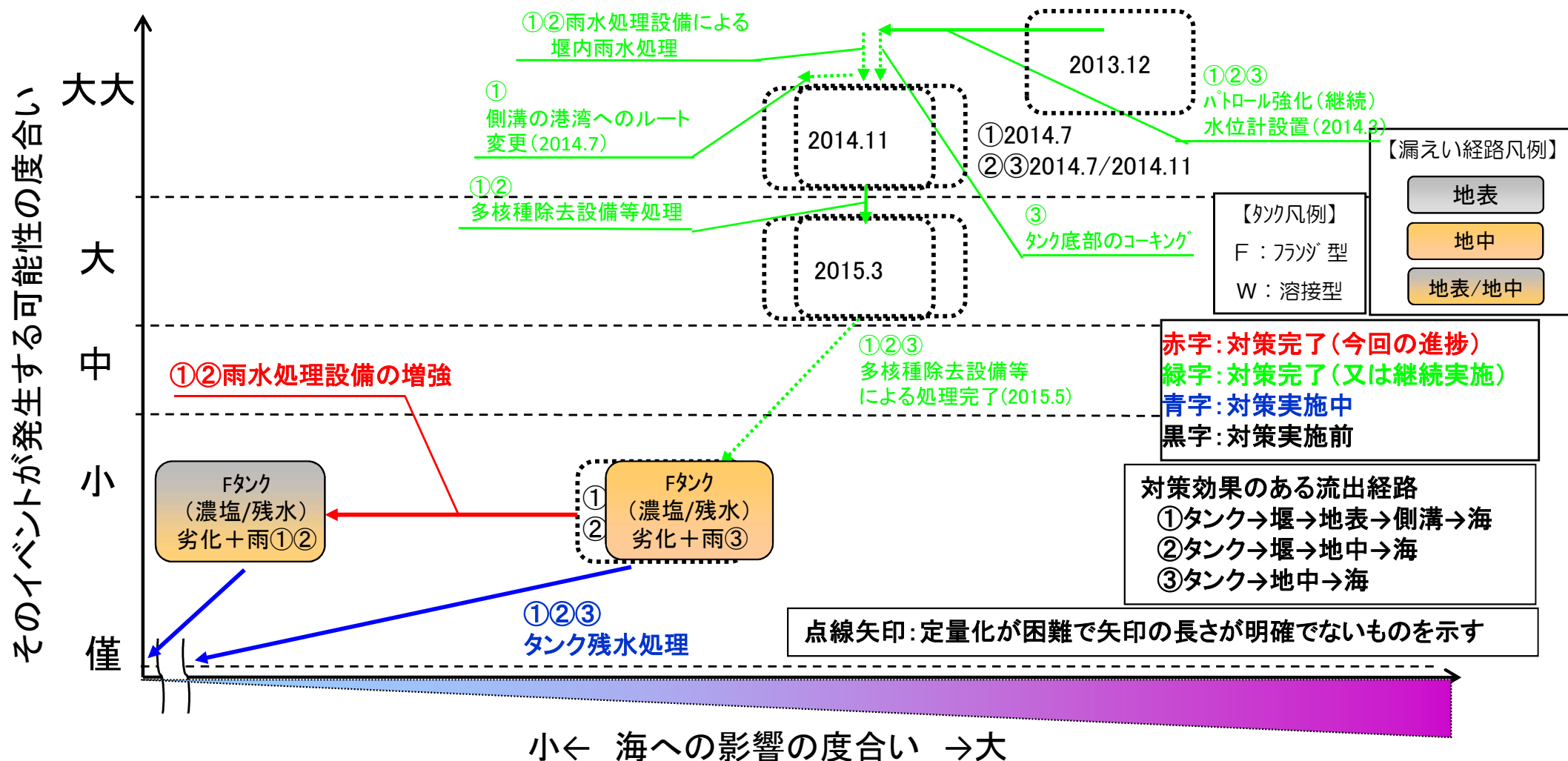
# 汚染水イベント発生リスクマップ (2015.7) 【②-2フランジタンク (濃縮塩水) / 経年劣化】

- 多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了
- 残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。



# 汚染水イベント発生リスクマップ (2015.12) 【②-3フランジタンク (濃縮塩水) / 経年劣化+雨】

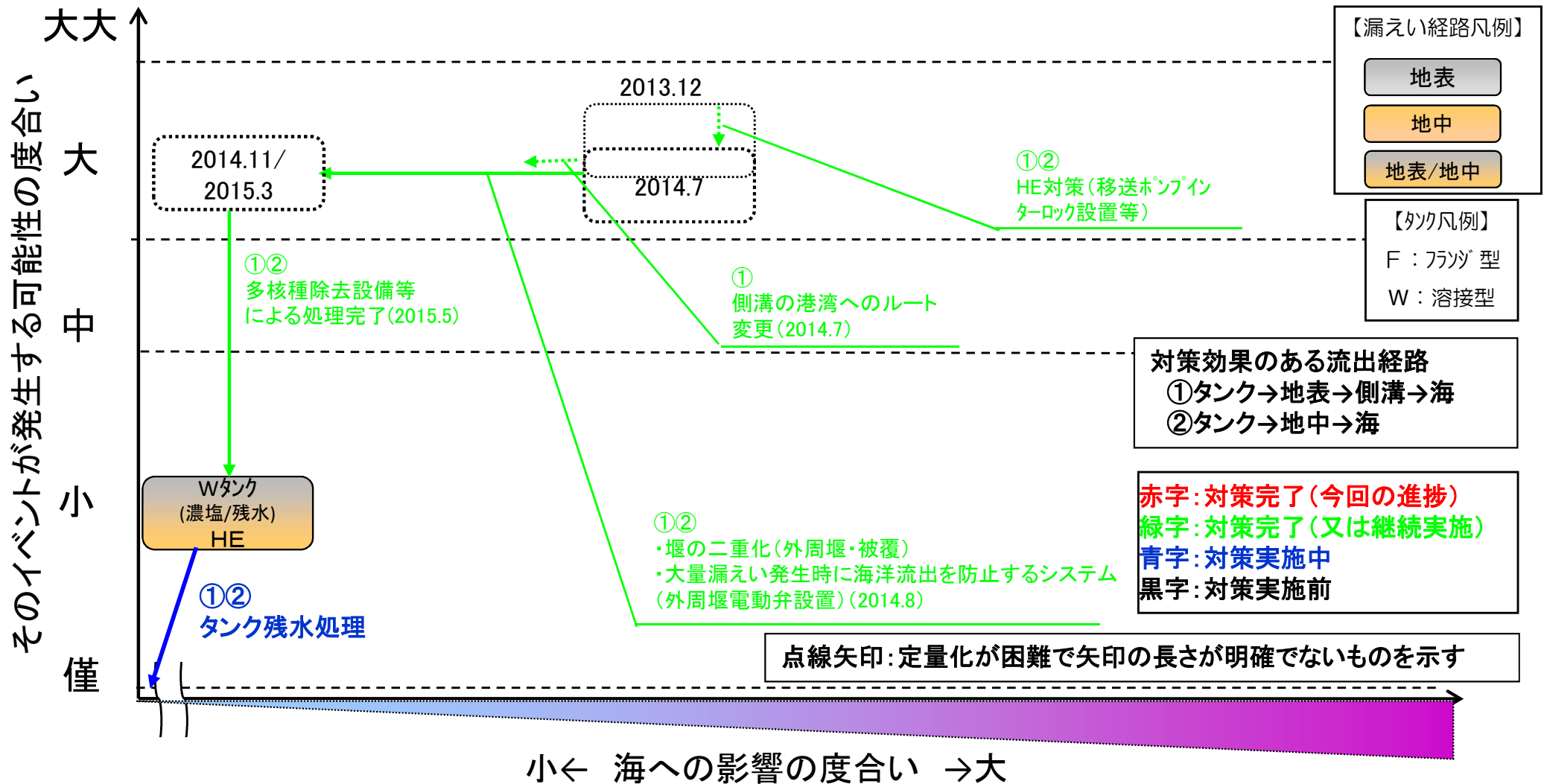
- 多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了
- 雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減**
- 残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。





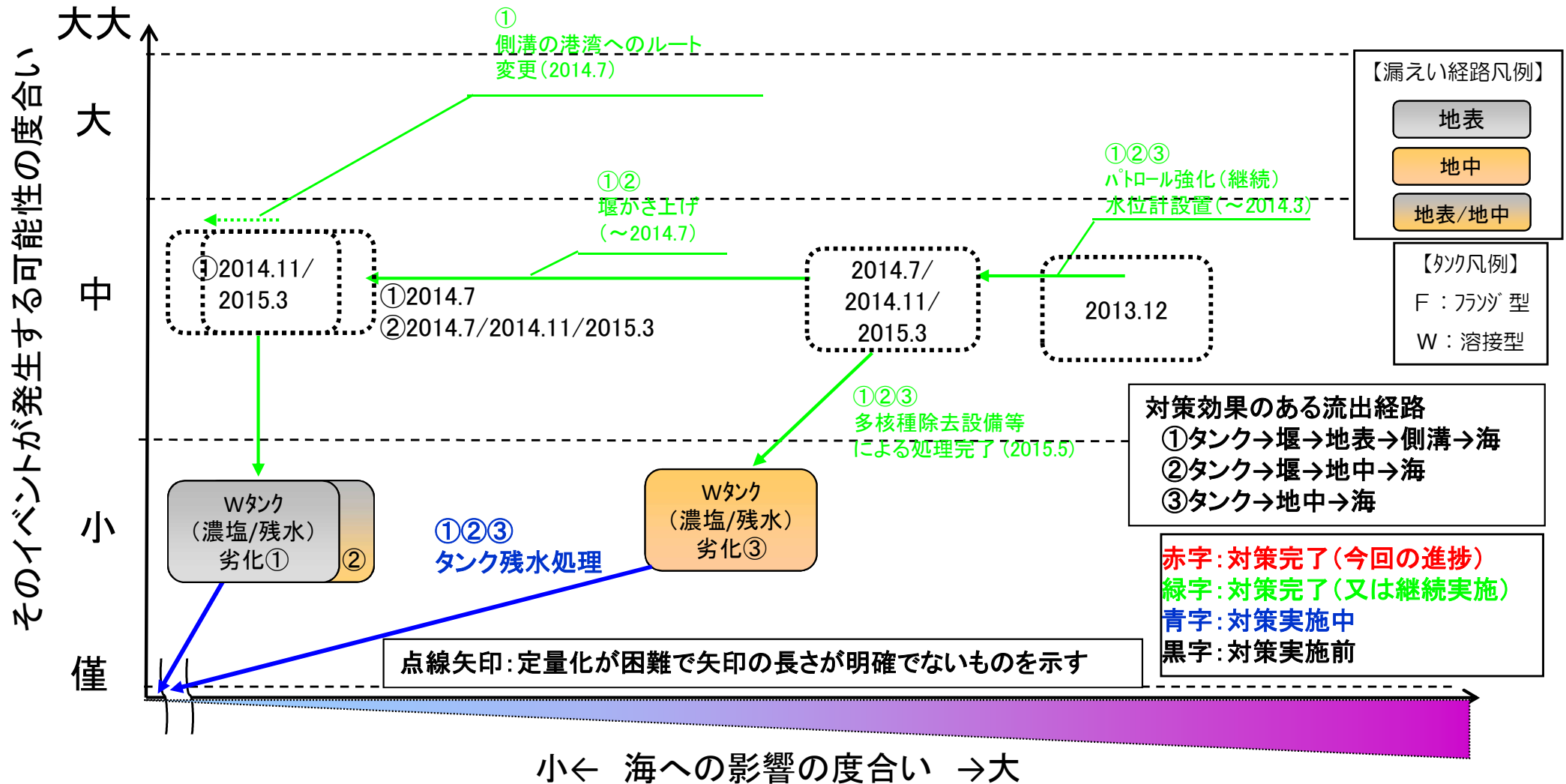
# 汚染水イベント発生リスクマップ (2015.12) 【③-1溶接タンク (濃縮塩水) / ヒューマンエラー】

- 多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了
- 残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。



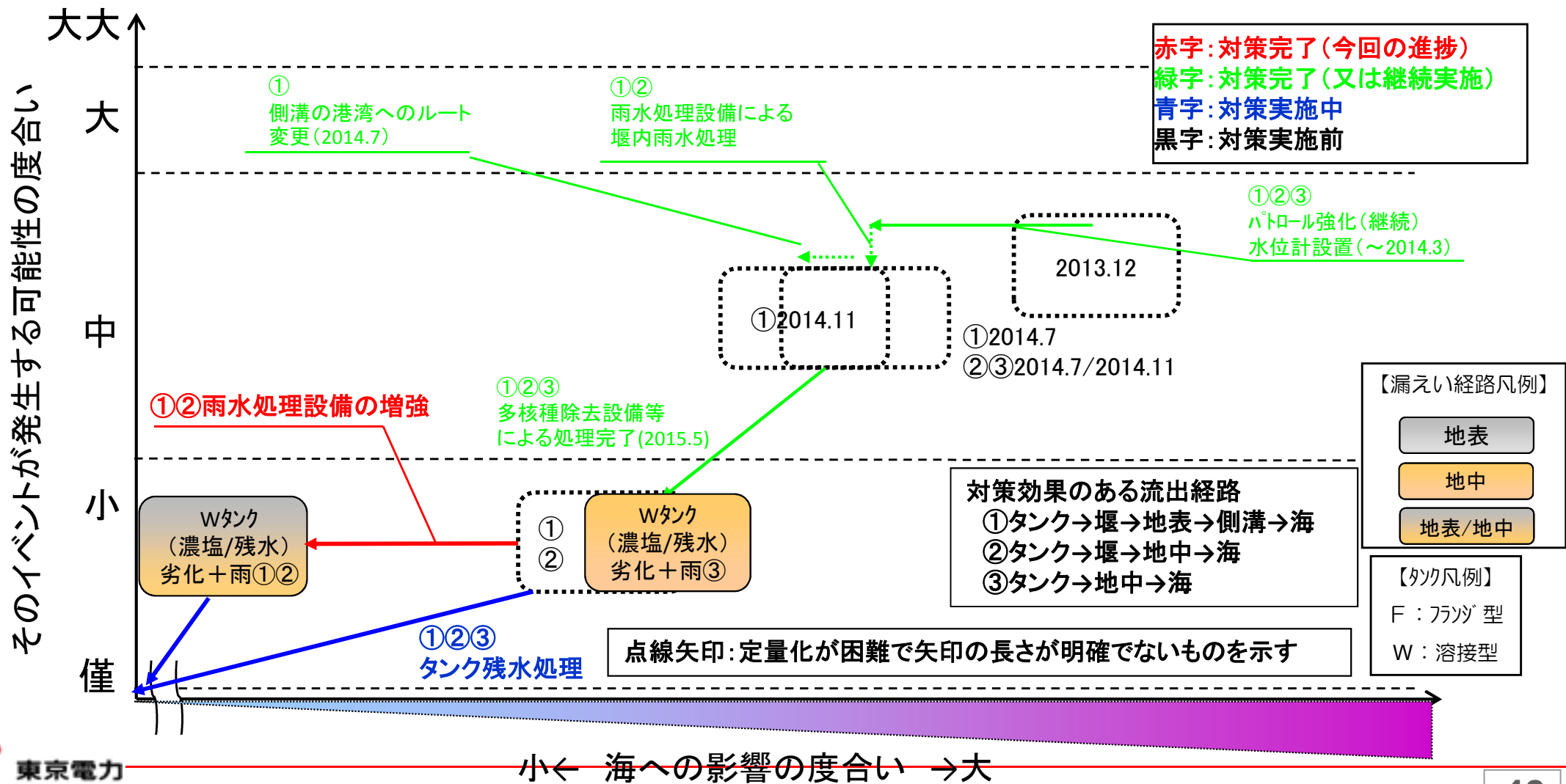
# 汚染水イベント発生リスクマップ (2015.12) 【③-2溶接タンク (濃縮塩水) / 経年劣化】

- 多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了
- 残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。



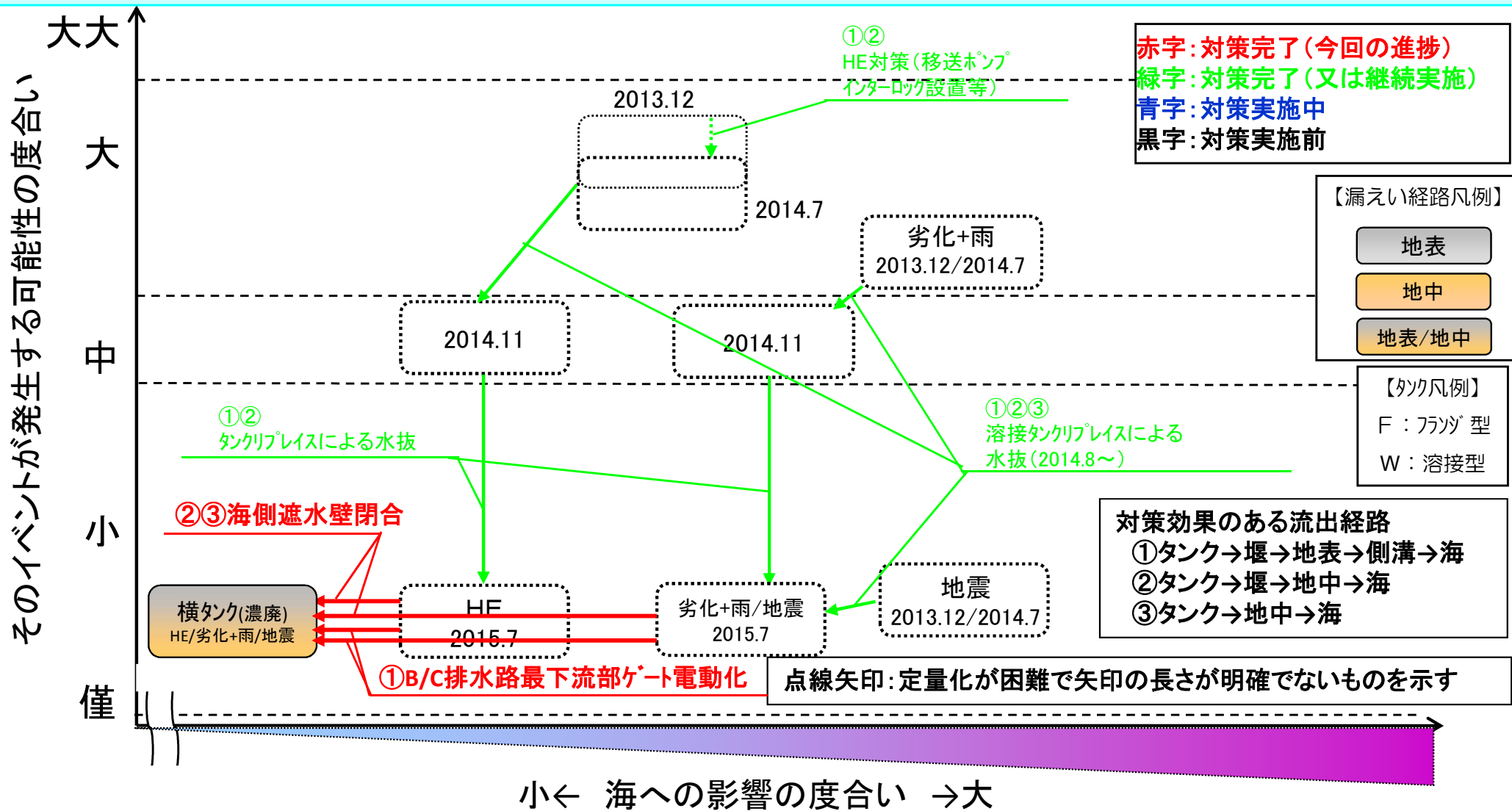
# 汚染水イベント発生リスクマップ (2015.12) 【③-3溶接タンク (濃縮塩水) / 経年劣化+雨】

- 多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了
- 雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減。**
- 残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。

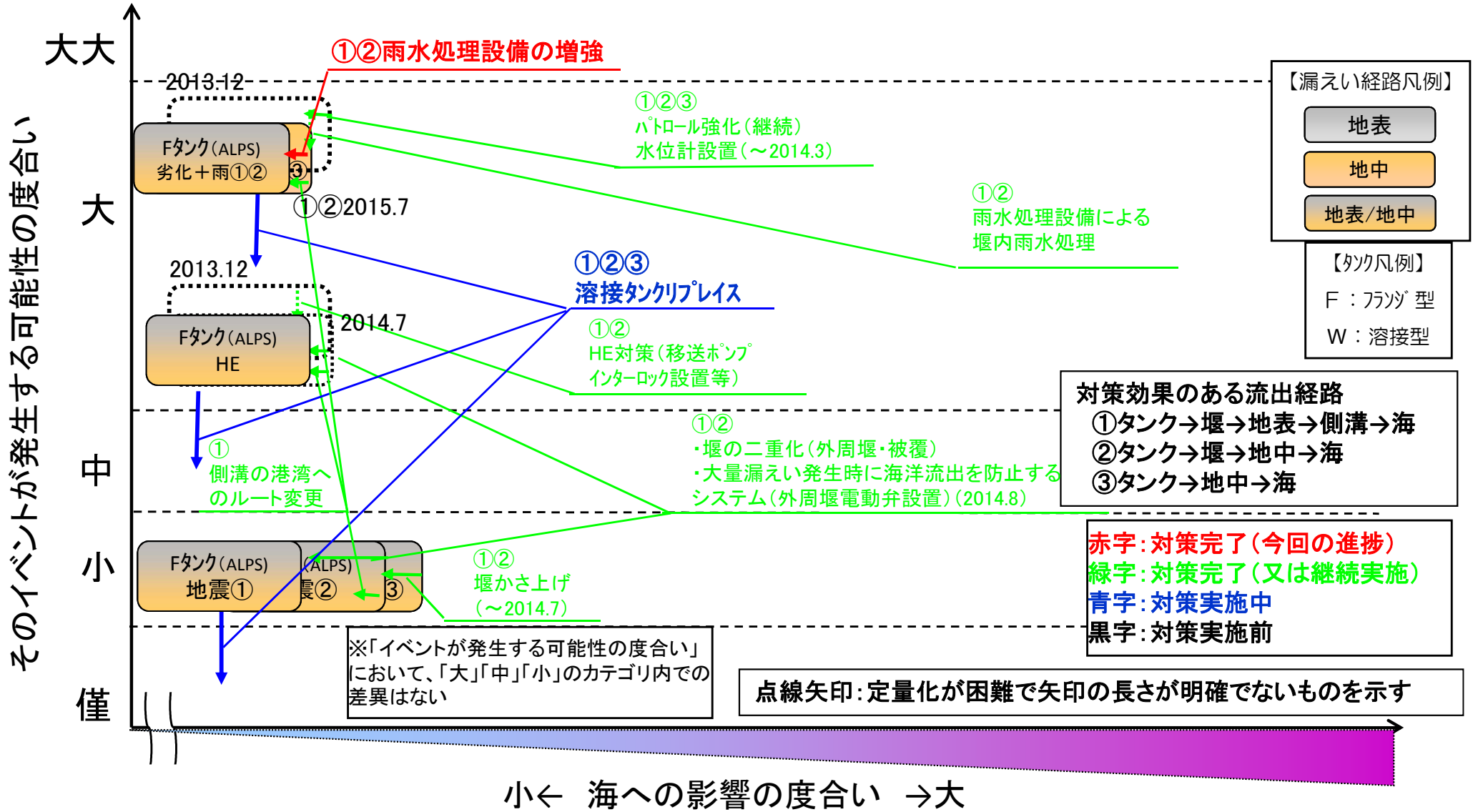


# 汚染水イベント発生リスクマップ (2015.12) 【④横置きタンク (濃縮廃液)】

- 横置きタンクよりポンプでくみ上げ可能な汚染水を除去し、タンクの撤去を実施中。
- 海側遮水壁の閉合により、地中を経由し護岸付近の地下水から海洋への流出が抑制。
- B/C排水路最下流部のゲート電動化により、地表での大量漏えい時の海洋流出が抑制
- 残留するスラッジ分は、水処理二次廃棄物と同等の管理とする。

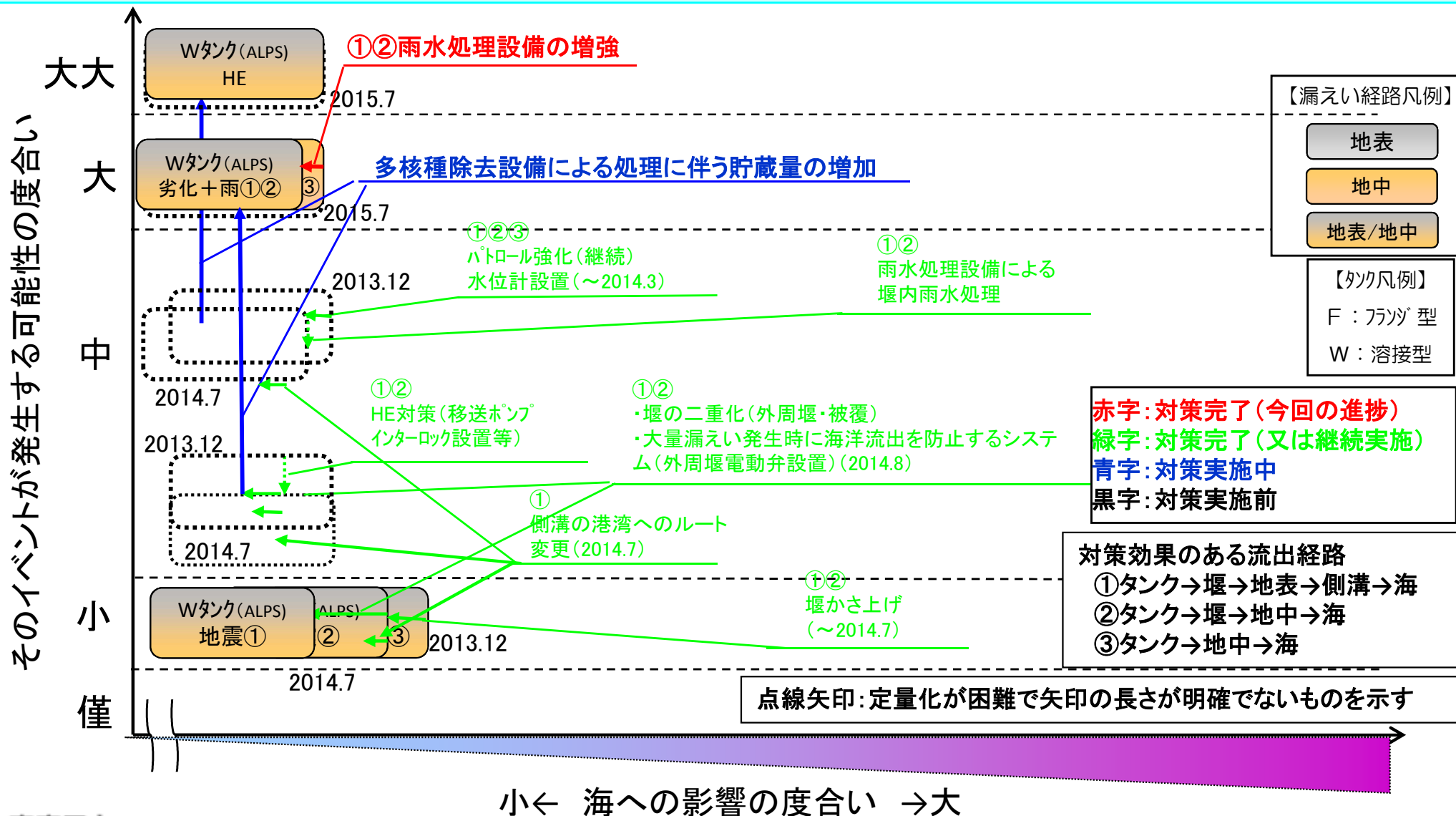


- 雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減
- タンクリプレイスにより、劣化による漏えいリスクを低減。



# 汚染水イベント発生リスクマップ (2015.12) 【⑥溶接タンク (ALPS処理水)】

- 雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減
- ストロンチウム処理水の処理に伴い、継続的に処理水貯蔵量が増加中 (イベント発生可能性の度合いが増大)。



# 汚染水イベント発生リスクマップ (2015.12) 【⑦Sr処理水】

- 雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減
- B/C排水路最下流部のゲート電動化により、地表での大量漏えい時の海洋流出が抑制
- ストロンチウム処理水については、多核種除去設備で再度処理を実施中。

